

学力向上フロンティア事業実施報告書

都道府県名

福島県

I 学校の概要

学校名	福島県安達郡安達町立安達中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	3	4	2	15	
生徒数	151	110	128	5	394	

II 研究の概要

1 研究主題

『自ら学び自ら考える力を育てる指導法の研究』

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

学習の習熟の程度に差が生じやすい第2学年～第3学年の数学科・英語科において実施する。なお、数学科・英語科においては加配教員（各教科1名）がいるため指導体制の工夫が可能である。

(2) 年次ごとの計画

【平成15・16年度】

●テーマ「確かな学力の向上につながる少人数指導のあり方」

●仮説

習熟度別指導の特質を生かし、個人差に応じ、個を生かす学習活動を組織すれば、確かな学力が身に付くであろう。

●研究内容

ア 個人差に応じ、個を生かす指導のための指導体制の工夫改善

① 数学科・英語科における、発展的な学習・補足的な学習を可能にする教育課程の編成・時間割の工夫

- ・年間を通じて2年3年の数学科・英語科においては、習熟度別の少人数指導を実施する。
- ・2年3年の数学科・英語科の授業においては、数学科・英語科の授業を同一時間に設定する。
- ・数学科と英語科の教科部会を時間割に位置づける。

② 習熟の程度に応じた学習集団編成による指導の工夫

- ・2学年＝全3クラスを3コース＝A基礎 B標準（2クラス） C発展の4クラスに集団に編成する。
- ・3学年＝2クラス（全4クラス）を3コース＝A基礎 B標準（2クラス） C発展の4クラスに集団編成する。
- ・習熟度別のコースわけについては、生徒の希望を取り入れ、学習達成度・学習速度・興味関心に応じて教科担任の指導助言のもとに編成する。

③ コースわけに対応した指導計画・評価計画の作成

・習熟度別クラスの特質を生かした指導と評価の具体的な手だてを作成する。

④ 生徒・保護者への周知徹底

・学校通信などを通して、趣旨・方法を示し、理解を得る。

イ 個人差に応じ、個を生かす指導のための教材開発・指導方法の工夫

① 第2学年～第3学年の数学科・英語科における、発展的な学習・補充的な学習の教材開発

・教科の特色をふまえた習熟度別学習プリントの工夫と活用

AB. BC 間で学習プリントや課題を共有させコース間移動の資料とする
個人カルテを作成し、コース間移動した生徒の引き継ぎを行う

② 発展的な学習・補充的な学習など個人差に応じ、個を生かす指導方法の工夫

・座席表による個の理解と個別指導への活用

・個別指導に活用できる生徒の個人カルテの作成

・コースごとの実態に応じた学習過程の工夫

(課題設定, 課題把握の工夫・知的好奇心を起こす工夫・成就感を味わわせる工夫など)

・個を生かす効果的な学習形態の工夫

ウ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善

① 単元の指導計画をもとにした一単位時間ごとの達成基準の作成

② 評価方法の工夫・改善

・NRT 学力テストの活用 (生徒の実態把握＝生徒の学力分析)

・自己学習能力を育成する自己評価の工夫

・自己評価力, 相互評価力を高める指導方法の工夫

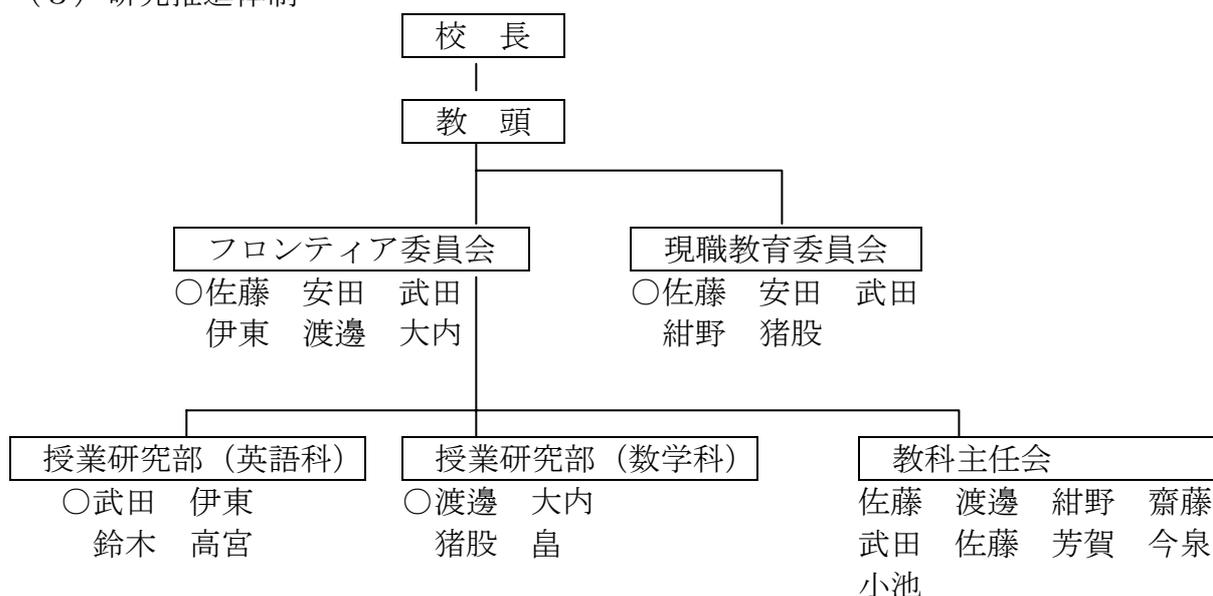
・絶対評価の充実

個人カルテの作成と活用によるつまずきの把握

座席表による1単位時間の評価の積み重ね

・家庭への通知表の工夫, 改善

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の成果及び今後の課題

ア 個人差に応じ、個を生かす指導のための指導体制の工夫改善

数学科 A 教諭の時間割

数学科 B 教諭の時間割

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	学活	3-3 3-4	2年	3-3 3-4	1-2	1	学活	3-3 3-4	2年	3-3 3-4	
2	1-2	3-1 3-2	3-3 3-4	2年		2		3-1 3-2	3-3 3-4	2年	1-3
3			1-1			3	1-3		1-4		1-4
4	部会	1-1			2年	4	部会			生指	2年
5	総合	1-2	3-1 3-2	1-1	3-1 3-2	5	総合	1-4	3-1 3-2	道徳	3-1 3-2
6		総合	道徳			6		総合	1-3		

- ① 数学科・英語科における、発展的な学習・補充的な学習を可能にする教育課程の編成・時間割りの工夫により、生徒が主体的に学習活動に参加、自らの個性や特性に対応した学び方を身につけることができた。また、学習の意味をとらえることができ、学習への意欲を持って学ぶ姿が見られた。学校課題として位置づけ、教育課程に組みこむことは重要である。
- ② 数学科と英語科の教科部会を時間割に位置づけ、教科部会の充実を図ることにより、各単元で指導すべき基礎・基本とは何か、基礎・基本を徹底して生徒一人一人に身に付けさせるにはどのような内容・方法が必要とされるのか、評価方法についての研究が深められた。
- ③ 習熟の程度に応じた学習集団編成するにあたって、
 - 生徒に対して
 - ・自分のための学習であることを正しく理解させる。
 - ・学習のコースは生徒自身に判断させ、教科担任の指導助言のもと決定させる。
 - ・学習途中でのコース変更を可能とする。
 - ・単元ごとのガイダンスを実施する。
 - 保護者に対して
 - ・授業参観などを通して生徒の学習時の姿を公開する。
 - ・学校日より、学年日よりなどを通して「習熟度別の少人数指導」に関する理解を深める。
 - ・「習熟度別の少人数指導」に関する意見を求める。(アンケートの実施)

などの手だてを講じたところ、生徒自身に「やればできること」や「分かる喜び」を味わわせ「学習は楽しい」という体験を通して、生徒一人一人に学習意欲を持たせることができた。また、保護者のアンケートからも「習熟度別の少人数指導は『真の平等教育である』と感じる」などの声も寄せられ、『能力別』『学力別』によって一層学力差が拡大するのではないかと『できる生徒のための教育』ではないかという誤解はほとんど生じなかった。
- ④ 集団の間にある教室の壁、つまり、生徒間に程度の差はあれ、「優劣意識」が生じていることも事実である。さらに、自分のための学習であることを正しく理解させる手だての工夫と、よりいっそうの基盤となる認めあう集団づくりが課題である。
- ⑤ コースわけに対応した指導計画・評価計画の作成をさらに検討していくことが必要である。

イ 個人差に応じ、個を生かす指導のための教材開発・指導方法の工夫

- ① 習熟度別指導のねらいを明確に持って授業を構築することにより、習熟度別指導に意味を持たせることができた。また、習熟の程度に応じた「授業の具体的な手だて」の一般化によりどの教師がどのコースを担当しても、効果的な指導（個人差に応じた、個を生かす授業）がな

された。(※別紙「習熟度別指導の特質を生かした授業の具体的な手だて」参照)

- ② 生徒一人一人の習熟の程度に合わせた学習を保障する教材が準備され、かつ指導者が身近につき、指導や助言を受けながら課題解決に当たることができたため、英語科・数学科において確実な学力の向上が見られた。特に、学力下位層が減少した。
- ③ アンケート結果から、学習の仕方を身に付けた生徒の増加が認められた。学び方を学ばせることは、自ら学び、自ら考える力の育成に欠かせないことである。さらに、学習は楽しいという体験を通して生徒一人一人に学習意欲を持たせることができた。
- ④ さらに、努力すれば誰もが最終目標まで到達できるような教材の準備・開発、生徒の学習意欲に応えるための教材の準備・開発、つまりより公平な学習環境の設定の工夫が課題である。

ウ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善

- ① 単元の指導計画をもとにした一単位時間ごとの達成基準の作成の見直しを継続して実践していきたい。
- ② NRT 学力テストの分析、座席表や個人カルテの作成と活用により、一人一人の生徒のつまずき・達成基準の到達度が把握され、より効果的な指導の工夫がなされた。また、座席表や個人カルテの作成と活用により、生徒のコース間移動がよりスムーズに行われた。
- ③ 教科部会における十分な検討がなされた「達成基準を生かした授業」の構築により、「ねらい」「身に付けさせたい基礎的・基本的事項」が明確な授業展開・評価がなされた。目標達成のための指導と評価の一体化が図られ、これが学力向上に繋がったと考察できる。
- ④ つまずいたとき、どのような手だてを講じるか、予想以上に早く達成されたとき、どのような手だてを講じるか、など、「補充的な学習」や「発展的な学習」の評価を生かして、指導計画と評価規準を見直し、単位時間ごとの評価の観点を焦点化していきたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

- 定期的な学力検査の実施（標準学力検査 NRT テスト・全学年・5教科）
- 校内テスト、基礎学力テストの計画的な実施と結果の蓄積
- 座席表・個人カルテの蓄積

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

日時	教科	指導者	実施コース	指導助言
7/15(火) ※郡内に公開	英語	伊東富子教諭	3年Cコース	佐原聡県北指導主事
9/12(金)	数学	渡邊和子教諭	2年Bコース	遠藤忠弘校長
9/18(木)	英語	高宮恵子講師	3年Bコース	伊東富子教諭
10/9(木) ※郡内に公開	英語	武田由香理教諭	2年Cコース	滝沢雄一福島大学教授
10/14(火)	数学	畠 元章教諭	3年Bコース	遠藤忠弘校長
10/28(火) ※郡内に公開	数学	猪股尚文教諭	3年Aコース	遠藤忠弘校長
11/12(水)	英語	鈴木昌幸講師	3年Aコース	伊東富子教諭
11/18(火) ※管内に公開 パンフレット作成	数学	大内・畠・渡邊 ・猪股教諭	3年各コース	清水静海筑波大学助教授 丹野学県北指導課長

■ 習熟度別指導の特質を生かした授業の具体的な手だて ■

授業の構成		Aコース（基礎）	Bコース（標準）	Cコース（発展）	
ガイダンスをし、各コースの進め方の見通しを持たせ、コース選択に生かす					
個に応じた指導により自ら学び自ら考える力を育てる授業	学習のスタイル	補充的な活動も取り入れ、個別指導の時間を多めに確保する。	個別指導、グループ活動、一斉指導を適切に取り入れる。	追究活動が多くなるので、個別、グループ活動を効果的に取り入れる。	
	既習事項の確認	本時に関連する既習事項の確認を確実に行う。	本時に関連する既習事項の確認をして補足しておく。	単元のレディネスにより把握しておく。	
	課題把握の工夫	具体物を活用したり、具体的問題の解決をする。	興味・関心・意欲が起きる課題を設定する。	前時の関連より課題を与え、自力解決させる。	
	課題解決・強化	知的好奇心を起こす工夫	ヒントカードを活用する。	ヒントカードの活用、グループ活動などにより多様な考え方に触れさせる。	グループ活動などにより多様な考え方に触れさせる。主体的問題解決の場を設定する。
		成就感を味わせる工夫	基本問題の確実な解決により出来た喜びを感得させる。	発展問題に積極的に取り組ませ、解決の喜びを感得させる。	発展問題の難問題を解決した喜びにより達成感を味わわせるとともに内発的動機付けをする。
	まとめ・評価	振り返る場の設定	自己評価させ、わかったことの確認（できるようになった内発的動機づけ）をする。	自己評価の仕方を工夫し、まとめの方法を工夫する。	自己評価を行わせ、次時へ発展させる。
		自己評価と教師による評価を生かし、単元末のコース選択に生かす			
個の理解（実態把握） ・レディネステスト ・個人カルテ ・座席表 ・自己評価表 ・アンケート調査 ・NRT学力検査の分析 ・単元テスト、定期テストの分析					



確かな学力の育成

○ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの新規校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無